HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北大古生物学の巨人たち
Author(s)	田中, 嘉寛; 小林, 快次
Description	総合博物館へ行こうII. 第5回.
Citation	きぼうの虹, 368, 7
Issue Date	2017-02-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/67960
Type	article
File Information	kibou368.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

博物館へ行こうII

第5回

北海道大学総合博物館 企画展

「北大古生物学の巨人たち」

北大総合博物館　資料部研究員　田中嘉寛
准　教　授　小林快次

1933年、樺太における北大の発掘

北大博物館は1月31日から企画展「北大古生物学の巨人たち」を開催します。ここではその展示の見どころを紹介します。

巨人たちの人となりに触れる

展示のメインテーマとして、北大古生物講座の初代、長尾巧教授から、大石二郎教授（写真1）、早坂一郎教授、湊正雄教授を経て現代、活躍しておられる加藤誠名誉教授まで、5人の教授をご紹介します。北大の古生物学の歴史は戦前の帝国大学時代まで遡ります。長く学術界をリードしてきた。偉大な功績を誇る教授方、それぞれの専門や業績だけでなく、人となりについて、インタビューや卒業生たちの文集などを丹念に読み、エピソードを集めました。教授たちが学生に対して与えたアドバイスや、研究者としての生き方など、時代が違っても、学問に対する姿勢は現代の私たちに何か伝えてくれるかもしれません。どのような生活を送っていたのかなど、展示パネルを読んでいくと、会ったことがない教授たちの人となりを想像できるかもしれません。まさに、顔が見える展示になりました。

写真1　野外調査での一葉。
中央右、初代長尾教授。右、第二代大石教授。

そして巨人たちの後を追う、現代の取り組みについてもご紹介します。古生物学教室を卒業、あるいは在学している若者たちの研究や野外調査です。北大博物館は歴史を引き継ぐだけでなく、とりまとめ記録を残し、そして新しい研究成果を挙げ続けています。

巨人たちから受け継がれた標本や資料を公開

北大はその地理的な関係から、戦前の樺太研究が盛んに行われていました。樺太からは恐竜ニッポノサウルスやスモスチルスという絶滅した水生哺乳類は長尾、大石教授らによって発見されています。また、サンゴや化石をスライスした薄片など、早坂、湊、加藤教授らによって研究された化石も多く展示します（写真2）。

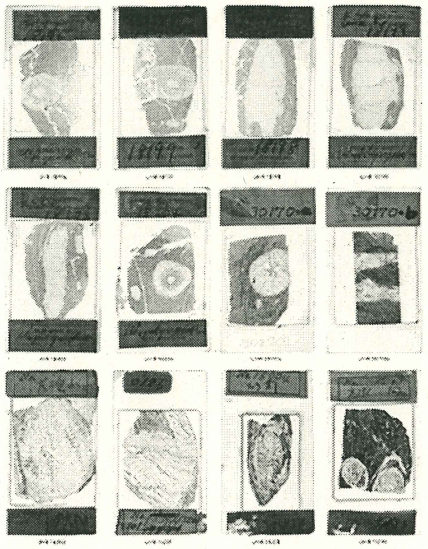

写真2　第四代湊教授が研究した
サンゴ化石の薄片標本。

これらの実物化石は、湊教授らの努力によって戦火を乗り越え、現在まで北大総合博物館に保管され続けてきました。絶え間ない「次世代への知の継承」を、企画展で皆さんに見て頂き、1930年代の息吹を、当時の研究ノートや、発掘時の貴重な動画などと一緒に見て頂きたいと思います。発掘の経緯や、発掘の動画を見ると、化石たちの存在感が増して感じるのは不思議な事実です。

企画展ポスター

企画展「北大古生物学の巨人たち」

会　　期：2017年1月31日（火）～4月2日（日）
会　　場：北海道大学総合博物館 1階企画展示室
開館時間：10：00～17：00
休 館 日：月曜日（祝日の場合は翌日休館）
2月25日（土）・3月12日（日）
入場無料
展示解説書の販売あり